（H29.4.1 ：校長）

四万十高等学校　学校経営構想図

校　訓

真理の探究　　勤労の愛好　　個性の尊重

教育基本方針

教育基本法の精神に則り、社会の変化に主体的に対応できる豊かな心と強い意志、幅広い知識を持った人間の育成を目指すとともに、地域社会の期待に応え信頼される教育を推進する。

教育基本方針（３本柱）

1　自然と共鳴し、調和して生きる感性豊かな生徒を育てる。
2　情報化、グローバル化、少子高齢化が進展する社会の諸課題を知性的かつ創造的に考察できる能力と、地域社会へ積極的に関わろうとする態度を有する人材を育てる。
3　生徒一人ひとりの個性を尊重し、人格形成や将来の自己実現に向けた教育を行う。

目指す生徒像

豊かな心、生涯を通した学びや社会生活の基盤となる知識・技能、選択能力を持ち、地域に根差し、社会貢献への一歩踏み出そうとする生徒

学びの基盤

授業やHR活動、部活動等を通して学びの基盤となる知識・技能と併せて「学びを組織する方法」を身に付けた生徒

在り方生き方

授業や特別活動、部活動等を通して得た体験や収集した情報を自分の進路選択や生き方に結び付け、自己と他者を大切にできる生徒

自己教育力

目標実現に向けた計画の取組状況を振り返り、「何が成果で課題は何か」を自らに問いかけ、主体的かつ計画的に取り組む方法を会得した生徒

四万十高等学校でのキャリア発達課題と進路学習の視点

～　身の周りの世界での探索や挑戦、一人前の社会人に成長できる力を蓄える時期　～

・自分自身への理解を深め、今の自分を受け入れる
〇ソーシャル・スキルの獲得
・将来設計と社会人への移行の準備

〇 将来の職業を絞る、しっかりとした判断基準を持つ
・職業と資格、雇用賃金等の実態を理解する
・ライフ･ワーク･バランスの視点に立って仕事を考える

授　　業
特別活動

キャリア教育・的確な情報に裏付けられた進路指導
〇基礎的・汎用的能力を育てる特別活動・総合学習、ＳＳＴ
〇上級学校や企業、情報業者から得た情報の精査と活用

部 活 動
地域連携

【強み】
・素直で真面目
・指示されたことは取り組む
・掃除をする
・話を聴く姿勢
・　四万十という資源を生かした地域の取組

生 徒 全 員 に 養 う べ き 力

学びの基盤となる知識と学ぶすべ（学びの力）	他者理解を通して自らを知り律する力	自己の能力・適性と社会の実情を知り進路を判断する力
【基盤となる学びの力】	**【人としての力】**	**【進路を切り開く力】**

【現状の弱み】
・待ちの姿勢
・交流することへの消極性
・少ない外部情報〈弱い動機付け〉
・基礎学力の弱さ
⇒家庭学習の質に課題

平成２９年度　主な取組み内容と大切にしたい視点

足並みを揃えた指導・支援で個と集団の力を育て、一人一人の自主性・主体性を引き出そう！

【学力向上の視点】学ぶことをあきらめさせない
〇授業における主体性の確立
① 授業規律　起立・礼・着席の徹底
② 主体的な学習姿勢 ⇔ ノート指導
〇本時の学習のねらいの明確化と、習熟の度合いに応じた家庭学習すべき課題の明示
◎ 到達目標を踏まえた評価方法・評定の工夫
※ 関心・意欲・態度の評価では、実質の担保を
〇個への組織的な指導・支援（課題と対策、協力体制、支援期間の明確化　→　共有）
〇 進路実現に向けた「四万十スタンダード」
学びの手立てと評価基準　可視化 ⇔ ＰＤＣＡ

【生徒育成の視点と取組】
◎　自己理解・他者理解、ソーシャル・スキルの獲得に重点を置く
⇒　総合的な学習の時間に位置付け
〇 主体的に考え・振り返りを行う機会の設定
〇 時と場に応じた、言葉使いや態度の育成
※　職員室での対応はマナー習得の機会
〇 あいさつ、身だしなみ指導（社会規範、校則の根底にあるマナー・礼の大切さに気付く指導を）
・配慮不足の言動や態度を見逃さない。叱るだけでなく、在り方・生き方を問うとともに、前向きな面を見出して承認する。
※　生徒に何をどう語り伝えるか

【目標】自己の能力・適性、社会の実情や上級学校の役割の理解に立脚した選択能力の育成
◎ スケジュール手帳の効果的な活用 ⇒ 目標と取組状況の可視化 ⇒ 自己管理力の育成
◎ キャリア教育・進路指導の視点
収入と生活、職業と資格、雇用形態と賃金等の仕組みの理解＋ライフワークバランスの視点
◎ 四万十概論・総学、インターンシップ
・ 入手した情報の妥当性の評価 ⇒ 就職先、進学先の決定に生かす
・ 事前・事後指導（主体的な計画作成と事後の振返り）
⇒ 職に対する適性理解